

2026 年度
東京医科大学病院
麻酔科専門研修プログラム



1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

麻酔専門研修の概要

本プログラムは安全で質の高い周術期医療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与するための、麻酔科関連領域の研鑽を積むことを目的とした専門研修プログラムである。将来日本の麻酔科医療を担う人材となり、如何なる事態にも対応のできる自信と麻酔科医療に対する誇りを有する麻酔科医となるべく、専門研修を通じて麻酔科学の基本である麻酔管理学、集中治療医学、ペインクリニック学、緩和医療学の基礎を学び、将来、世界に通用する麻酔科医となり医療貢献するための研修である。

本研修を通じて、麻酔科医にとって不可欠な知識・技術を身につけるだけでなく、医師・看護師・学生への教育指導能力の獲得とチーム医療に携わる者に必要な豊かな人間性やリーダーシップの涵養に努め、プロフェッショナルな麻酔科医になるための研修プログラムを用意している。本研修プログラム終了後に麻酔科専門医を取得し、その後、麻酔科学会指導医、ペインクリニック学会専門医、集中治療医学会専門医、博士号取得を目指す。

麻酔専門研修の目的

- 1) 十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能を修得すること。
- 2) 刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力を備えること。
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣を学ぶ。人への思いやりと医療に対する愛情を有すること。
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心を持つ。弛まぬ努力により知識と技術の向上に努めること「学則不固」をモットーに！リサーチマインドを有すること。
- 5) チーム医療を担うための人格とリーダーシップを有すること。

以上の資質を修得した医師となることを目的とする。

プログラムの特徴

本プログラムにおける麻酔科専門研修では，あらゆる症例に対応できる手術麻酔の研修を受けることが出来る。特殊症例（小児麻酔，心臓血管麻酔，胸部外科麻酔，産科麻酔，脳神経外科麻酔）は，基幹病院である東京医科大学病院のみならず，多様で特色のある専門研修連携施設で更に学ぶ事が出来る。

麻酔関連領域である集中治療研修は，過大侵襲を受けた術後患者や敗血症，ARDSなど重症患者の病態を把握し，エビデンスに基づいた呼吸・循環管理，感染症管理，代謝栄養管理などの全身管理，集中治療の基礎と最先端を学ぶ事が出来る。ICUスタッフと主治医，感染制御部医師，看護師，薬剤師，臨床工学技士と合同でカンファランスを開き，治療方針の決定を行う。多職種で呼吸管理や感染症，代謝異常の患者の全身状態を把握する。多職種連携の総合医療である集中治療領域で**リーダーシップを学ぶ**。

麻酔関連領域であるペインクリニック研修では，とくに診断学を重視する。診察・検査・診断・治療のロードマップをしっかりと引けるような研修を行う。超音波ガイド下神経ブロックやレントゲン透視神経ブロックなどの手技や薬物療法，理学療法，東洋医学，臨床心理学など幅広い診療を学ぶ事が出来る。また，整形外科，リハビリテーション科，神経内科，看護師，臨床心理士と合同カンファランスを行うことで，**多職種連携の医療とチームワークを学ぶ**事が出来る。

到達目標

本研修プログラムでは、専攻医が**整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標**を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、基本的に専門研修基幹施設である東京医科大学病院において研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中の年間の麻酔経験件数は約200例以上を経験する。
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中に麻酔科標榜医を取得する。
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中に麻酔科認定医を取得する。
- 特殊麻酔研修では、研修内容の充実を図るため、基幹病院以外の専門研修連携施設で更なる研修を行う。
- **小児麻酔研修**では、基幹病院あるいは、小児領域に特徴のある研修連携施設である、国立成育医療研究センター、埼玉県立小児医療センター、自治医科大学附属病院のいずれかにおいて研修を行う。
- **心臓血管麻酔**では、基幹病院あるいは、心臓血管領域に特徴のある研修連携施設である、国立循環器病研究センター、自治医科大学附属病院、三井記念病院、東京医科大学八王子医療センター、千葉大学医学部附属病院、山形大学医学部附属病院、松波総合病院、立川総合病院のいずれかにおいて研修を行う。
- 専門研修基幹施設で研修プログラムをもつ、東京医科大学八王子医療センター、大阪公立大学医学部附属病院、秋田大学医学部附属病院、自治医科大学附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、筑波大学附属病院、千葉大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、三井記念病院、東京警察病院、山

形大学医学部附属病院，熊本大学医学部附属病院，静岡医療センター，戸田中央総合病院，立川総合病院，松波総合病院と連携し共に補い合うことで，**幅広い麻酔科専門研修**を行うことが出来る．

- **ペインクリニック研修**を基幹施設である東京医科大学病院で3ヶ月以上行う．
- **集中治療医学研修**を基幹施設である東京医科大学病院で3ヶ月以上行う．
- すべての領域を網羅するローテーションAを基本とするが，小児麻酔を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例B），ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），集中治療医学を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する．
- 地域医療の維持のため，最低でも3ヶ月以上は**医師少数県で研修**を行う．また，プログラム内では基幹施設のある東京都以外に，秋田県，山形県，茨城県，千葉県，埼玉県，栃木県，岐阜県，熊本県，新潟県，大阪府と**幅広い地域**に対して医療貢献するプログラムとしている．

研修実施計画例

コース	A(標準)	B(小児)	C(ペイン)	D(集中治療)
初年度 前期	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	研修連携施設 A または B	本院または 研修連携施設 A	本院または 研修連携施設 A	本院または 研修連携施設 A
2年度 後期	研修連携施設 A または B	小児麻酔研修	本院(ペイン)	本院(集中治療)
3年度 前期	本院または 心臓麻酔研修	本院または 本院(集中治療)	本院または 心臓麻酔研修	本院または 小児麻酔研修
3年度 後期	本院または 小児麻酔研修	本院または 本院(ペイン)	本院または 小児麻酔研修	本院または 心臓麻酔研修
4年度 前期	本院または 本院(ペイン)	本院または 心臓麻酔研修	本院または 本院(ペイン)	本院または 本院(集中治療)
4年度	本院	本院または	本院または	本院または

後期	本院(集中治療)	研修連携施設 B	本院(集中治療)	本院(ペイン)
----	----------	----------	----------	---------

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	外勤	手術室	休み	カンファ	休み
午後	手術室	手術室	外勤	手術室	術前評価	休み	休み
当直				当直			

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

● 東京医科大学病院

研修プログラム統括責任者：合谷木 徹

専門研修指導医：

内野 博之（麻酔，ペインクリニック，集中治療）

合谷木 徹（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔）

大瀬戸 清茂（ペインクリニック，麻酔）

中澤 弘一（麻酔，集中治療）

柿沼 孝泰（麻酔，心臓麻酔，産科麻酔）

高薄 敏文（麻酔，ペインクリニック）

関根 秀介（麻酔，集中治療）

板橋 俊雄（麻酔）

齊木 巖（麻酔，集中治療）

小野 亜矢（麻酔，心臓麻酔）

鈴木 直樹（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔）

河内 文（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔，区域麻酔）

栗田 健司（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔，区域麻酔）

都築 有美（麻酔）

唐仁原 慧（麻酔）

唐仁原 智子（麻酔，心臓麻酔）

認定病院番号 28

特徴：

麻酔，ペインクリニック，集中治療医学の領域を幅広く学ぶ事が出来る．

② 専門研修連携施設 A

● 東京医科大学八王子医療センター

研修プログラム統括責任者：富野 美紀子

専門研修指導医：

富野 美紀子（麻酔，心臓麻酔）

前田 亮二（麻酔，ペイン）

大嶽 宏明（麻酔）

奥山 亮介（麻酔）

認定病院番号 203

特徴：

大学附属病院としての高度・先進的な医療と,南多摩医療圏の地域医療の中核としての多様な症例をバランスよく経験できる研修環境を提供している.特に，生体腎移植，生体肝移植,脾腎同時移植など移植医療の麻酔を経験できる．

● 筑波大学附属病院

プログラム統括責任者：山下 創一郎

専門研修指導医：

山下 創一郎（麻酔）

山本 純偉（麻酔）

清水 雄（麻酔）

叶多 知子（麻酔）

中楯 陽介（麻酔、心臓麻酔、小児麻酔）

石垣 麻衣子（麻酔、心臓麻酔）

植田 裕史（麻酔、集中治療）

山田 久美子（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

廣瀬 優樹（麻酔、脳神経麻酔）
田地 慶太郎（麻酔、心臓麻酔）
山田 麻里子（麻酔、心臓麻酔）
岩井 与幸（麻酔、心臓麻酔）
大和 田麻由子（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
村田 雄哉（麻酔、心臓麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

専門医：

森川 裕史（麻酔）
澤井 真優子（麻酔、小児麻酔、産科麻酔）
岩田 裕貴（麻酔、小児麻酔）
嶋崎 敬一（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
河村 彰久（麻酔、小児麻酔）
谷中 亜由美（麻酔）
田崎 篤（麻酔）
佐々木 桃子（麻酔）
大西 真悠子（麻酔、産科麻酔）

認定病院番号：148

特徴：症例のバリエーションと豊富さが特徴で、短期間で十分な麻酔科診療の知識と技能を獲得出来る。最初は脳神経外科手術・腹部手術、胸部外科手術・血管手術・帝王切開術・小児の麻酔を中心に担当し、これらの症例に慣れてきた頃から心臓大血管手術の麻酔を担当する。1年間で専門医取得に必要な経験すべき特殊麻酔症例数をほぼ達成することができる。

● **秋田大学医学部附属病院**

研修プログラム統括責任者： 新山 幸俊

専門研修指導医：

新山 幸俊（麻酔、ペインクリニック）
木村 哲（麻酔、ペインクリニック、医療安全）
佐藤 浩司（麻酔、集中治療）
山本 夏子（麻酔、ペインクリニック）
関川 綾乃（麻酔、小児麻酔、無痛分娩）

堀越 雄太（麻酔，集中治療，無痛分娩）
小玉 早穂子（麻酔，心臓麻酔）
今野 俊宏（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
五十嵐（厨川）千香（麻酔，無痛分娩）
佐藤 結香（麻酔）
専門医：
根本 晃（麻酔，ペインクリニック）
小林 紗雪（麻酔）
五十嵐（水野） 香菜（麻酔）
伊藤 志緒乃（麻酔）
須永 悟史（麻酔）
石野 寛和（麻酔）
村上 風子（麻酔）

認定病院番号:80

特徴：

秋田大学医学部附属病院には11の手術室が設置されており，年間手術数 約6,000件のうち，約3,800件を麻酔科が管理しています．先進医療を担う大学病院である一方，地域の急性期病院という立ち位置でもあり，緊急手術が多いのが特徴です．特に心臓血管外科の開心術においては秋田県に2施設しか受け入れ可能な病院がない厳しい現状があり，ほとんどの心臓・大血管の緊急手術は当院に搬送されます．また，秋田県は高齢化率が日本一高く，高齢患者の麻酔管理も日常的で，当教室員は高齢者麻酔に習熟しています．耐術能に余力のない場合も多く，慎重に日々の麻酔管理を行なっています．また，Patient Flow Managementを導入し，入院前から患者さんの情報を把握し，入院から退院後まで円滑に進むように着手しています．2022年度から術後疼痛管理チームを発足させ，周術期管理により一層力を入れています．

● 東京女子医科大学病院

研修プログラム統括責任者：長坂 安子（麻酔）
専門研修指導医：
長坂 安子（麻酔）
黒川 智(麻酔)

尾崎 恭子(麻酔)
鈴木 康之(麻酔)
笹川 智貴(麻酔, ペインクリニック)
横川 すみれ(麻酔)
庄司 詩保子(麻酔, ペインクリニック)
土井 健司(麻酔)
石川 高(麻酔)
古井 郁恵(麻酔)
山本 偉(麻酔)
森脇 翔太 (麻酔)
武石 健太(麻酔)
中澤 莉沙(麻酔)
加賀屋 菜々(麻酔)
鈴木 真也(麻酔)
川本 英智 (麻酔)
羽二生 颯 (麻酔)

認定病院番号: 32

特徴：豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの研修も可能です。心臓麻酔研修は特に力を入れており、心臓麻酔専門医の取得も可能です。多種の臓器移植（心臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理，エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します。

● 立川総合病院

研修プログラム統括責任者：桑原 淳

専門研修指導医：

桑原 淳（麻酔,心臓血管麻酔,神経ブロック）
佐藤 敬太（麻酔,心臓血管麻酔,集中治療）
小澤 菜月（麻酔, 心臓血管麻酔, 神経ブロック）
岩出 宗代（麻酔, 神経ブロック, ペインクリニック）

認定病院番号：1469

特徴：新潟県内で中心的な役割を果たす手術施設。特に県内随一の心臓血管手術症例数を誇り、高度な心臓血管麻酔の修練が可能。

● 戸田中央総合病院

研修プログラム統括責任者：須田 千尋

研修指導医：

須田 千尋（麻酔）

宮崎 裕也（麻酔、集中治療）

眞鍋 亜里沙（麻酔、集中治療）

蔵本 愛理（麻酔）

吉川 凌太郎（麻酔）

認定病院番号：587

特徴：埼玉県南部地域における急性期中核病院である。小児麻酔、心臓外科麻酔、呼吸器外科麻酔、脳神経外科麻酔、移植外科麻酔を含めた総合的な麻酔研修を行うとともに、重症患者に対する集中治療、及び、地域における救急医療の研修を行う。

● 三井記念病院

研修プログラム統括責任者：横塚基

専門研修指導医：横塚基（麻酔、心臓麻酔）

大野長良（麻酔、心臓麻酔）

竹内純平（麻酔、心臓麻酔）

大槻達道（麻酔、心臓麻酔）

佐藤瑞穂（麻酔、蘇生）

今井恵理哉（麻酔、集中治療）

田中真佑美（麻酔）

松永渉（麻酔、心臓麻酔）

山本麻里（麻酔）

小平亜美（麻酔）

滑川元希（麻酔）

仲西里奈子（麻酔）

上條苑子（麻酔）

小嶋 太郎（麻醉）

認定病院番号：68

特徴：心疾患・呼吸器疾患・透析等の重症併存疾患合併患者を中心に幅広い症例を経験できる。

● 千葉大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：長谷川麻衣子

専門研修指導医：

長谷川麻衣子（麻醉,ペイン）

河野達郎（麻醉,ペイン）

木下陽子（麻醉,心臓麻醉）

孫 慶淑（麻醉,心臓麻醉）

奥山めぐみ（麻醉,小児麻醉,心臓麻醉）

石橋克彦（麻醉,小児麻醉）

山岸頌子（麻醉）

山地芳弘（麻醉,小児麻醉,心臓麻醉）

中尾史織（麻醉）

鈴木明加（麻醉,小児麻醉）

神山瑞恵（麻醉）

橋田真由美（麻醉,ペイン,緩和ケア）

宮田結奈（麻醉）

専門医：

新井宗晃（麻醉）

内野慶次郎（麻醉）

澤田雅世（麻醉）

柴原美緒（麻醉）

高橋周平（麻醉）

横田 堇（麻醉）

盛 裕貴（麻醉）

石川秀爾（麻醉）

礒貝加奈（麻醉）

栃木裕美子（麻醉）

峯川真紀（麻醉）

認定病院番号：37

特徴：大学病院として一般病院では経験できない最先端手術、侵襲の大きな手術や重篤な合併症を持つ患者さんの麻醉管理がほとんどで、臨床医としての実力をつけるには十分な症例が経験できる。心臓麻醉や小児麻醉、産科麻醉などの特殊麻醉も専門施設以上の研修が可能である。HCUでの術後患者の全身管理、疼痛管理を通して、より効果的な術前・術中・術後管理の研修を学ぶことができる。さらに、当教室の緩和ケア病棟で全人的に患者と向き合い、症状治療の重要性を学ぶこともできる。また、大学院生として臨床研究を行いながら麻醉科研修ができるのも大きな特徴である。研修期間中に手術麻醉、ペインクリニック、緩和医療の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻醉・硬膜外麻醉・脊髄くも膜下麻醉・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特種麻醉の担当医として本プログラム割り当て件数内で可能な限り経験する。

● 大阪公立大学医学部附属病院

研修実施責任者：森 隆

専門研修指導医：

森 隆(麻醉)

松浦 正(麻醉)

末廣浩一(麻醉， 心臓血管外科麻醉、集中治療)

矢部充英(麻醉， ペインクリニック)

舟井優介(麻醉， 小児麻醉， 心臓血管外科麻醉)

堀耕太郎(麻醉， 心臓血管外科麻醉)

藤本陽平(麻醉)

日野秀樹(麻醉， 小児麻醉， 心臓血管外科麻醉)

辻川翔吾(麻醉， ペインクリニック)

重里 尚(麻醉， 心臓血管外科麻醉， 集中治療)

木村 文（麻醉）

渡邊亮太（麻醉， 小児麻醉， 心臓血管外科麻醉）

認定病院番号：11

特徴：

機構専門医研修に必要な全症例を当施設で経験可能です。また、大学院博士課程並びにペインクリニックを併設しておりますので、博士号取得並びにペインクリニック認定医取得と機構専門医取得を両立できます。

● 熊本大学病院

研修プログラム統括責任者：平田 直之

専門研修指導医：

平田 直之（麻酔、集中治療）

杉田 道子（麻酔）

生田 義浩（麻酔）

鷺島 克之（麻酔、集中治療）

丸田 豊明（麻酔、集中治療）

江嶋 正志（麻酔、集中治療）

小松 修治（麻酔、ペインクリニック）

山田 寿彦（麻酔、ペインクリニック）

藤本 昌史（麻酔）

荒木 美貴（麻酔）

石村 達弘（麻酔）

徳永 祐希子（麻酔）

林田 裕美（麻酔）

林 正清（麻酔）

柚瑠木 朋子（麻酔）

原 万里恵（麻酔）

専門医：

宮川 直子（麻酔）

富田 香（麻酔、集中治療）

中村 真吾（麻酔）

田島 功一郎（麻酔）

石原 旭（麻酔、集中治療）

飽田 久扇子（麻醉）

丸山 桜子（麻醉）

大石 将之（麻醉）

是松 伸之介（麻醉）

認定病院番号：34

特徴： 大学病院としての多くの麻醉科管理症例を経験でき、必須である小児、帝王切開、心臓外科、胸部外科、脳外科の症例数が豊富である。手術室麻醉以外にも集中治療、ペインクリニック、緩和ケアをローテーション可能である。産科麻醉講座があるため無痛分娩の管理や、区域麻醉としてのエコーガイド下テクニック、ペインクリニック領域での透視下ブロックなどの手技も学ぶことができる。

● 順天堂大学医学部附属順天堂医院

研修実施責任者：川越いづみ

専門研修指導医：

川越いづみ（呼吸器外科麻醉・区域麻醉）

石川晴士（胸部外科麻醉・術前外来）

赤澤年正（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

長島道生（集中治療）

林田真和（心臓血管外科麻醉）

西村欣也（小児麻醉）

井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）

三高千恵子（集中治療）

近江禎子（麻醉全般・産科麻醉）

竹内和世（麻醉全般・小児麻醉）

工藤 治（麻醉全般）

岩田志保子（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

掛水真帆（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

尾堂公彦（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

河邊千佳（麻醉全般・小児麻醉）

福田征孝（麻醉全般）

安藤 望（麻醉全般）

藤野隆史（麻酔全般）
須賀芳文（産科麻酔）
門倉ゆみ子（産科麻酔）
千葉聡子（ペインクリニック）
原 厚子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
太田 浄（ペインクリニック）

専門医：

稲田美香子（麻酔全般）
林 愛（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
山口 愛（麻酔全般）
草野有佳里（麻酔全般）
塚田里奈（麻酔全般）
伊東由圭（麻酔全般）
宇田川梨子（麻酔全般）
桃井千恵（麻酔全般）
岩佐 美（麻酔全般）
河内 順（麻酔全般）
箕浦真奈美（産科麻酔）
米本周平（麻酔全般）
吉武翔太郎（麻酔全般）
森 悠子 （麻酔全般）
多賀慶子（麻酔全般）
岸井 絢（麻酔全般）
金子綾香（麻酔全般）
結束さやか（麻酔全般）

麻酔科認定病院番号 12

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティの指導陣も充実している。ペインクリニッ

ク、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

● 東京警察病院

研修プログラム統括責任者：石崎 卓

研修指導医：

石崎 卓（麻酔）

小安永 佳乃（麻酔）

嵐 朝子（麻酔）

高田 純子（麻酔）

野本 万祐子（麻酔）

濱田 隆太（麻酔）

認定病院番号：338

特徴：東京都中野区における急性期災害拠点病院である。産科麻酔，呼吸器外科麻酔，脳神経外科麻酔を含めた総合的な麻酔研修を行う。

● 松波総合病院

研修実施責任者：松波 紀行

専門研修指導医：

松波 紀行（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）

江崎 善保（麻酔，心臓血管麻酔，ペインクリニック）

橋本 慎介（麻酔，心臓血管麻酔）

小島 明子（麻酔，集中治療）

田中 亜季（麻酔，集中治療）

三上 大介（麻酔）

辻 菜々子（麻酔）

加藤真奈美（麻酔，心臓血管麻酔）

専門医： 中村知之（麻酔）

認定病院番号 480

特徴： 地域医療支援病院 がん拠点病院 救命救急センター

集中治療、ペインクリニックのローテーション可能
緩和ケアチームに参加可能

● 山形大学医学部附属病院

代表専門医：外山 裕章

専門研修責任者：岡田 真行

専門研修指導医：

外山 裕章

岡田 真行

飯澤 和恵

成澤 あゆ香

黒田 美聡

松浦 優

森谷 真知佳

小野寺 悠

鈴木 麻奈美

鏈水 健也

早坂 達哉

認定病院番号 133

特徴： 集中治療、ペインクリニックのローテーションが可能です。
療専門医研修施設、心臓血管麻酔専門医認定施設です。

集中治

③ 専門研修連携施設 B

● 東京医科大学茨城医療センター

研修プログラム統括責任者：柳田 国夫

専門研修指導医：

柳田 国夫（麻酔，ICU）

武田明子（麻酔，ICU）

認定病院番号 172

特徴：茨城県南部における急性期中核病院であり、「がん」、「総合救急」、「高齢者・機能障害者」、「小児・周産期」の4つの分野の充実を図っている。それらに応じた手術を中心に、小児麻酔、整形外科麻酔、呼吸器外科麻酔、脳神経外科麻酔を含めた麻酔研修、重症患者に対する集中治療、地域における救急医療の研修を行う。

● 国立循環器病研究センター

研修実施責任者：前田 琢磨

麻酔科指導医：

吉谷健司

金澤裕子

前田琢磨

南 公人

下川 亮

月永晶人

病院認定番号：168

センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室やCOVID対応陰圧手術室も設置しています。2024年度の症例数は、ほぼ前年と同程度でした。特に冬は緊急大動脈解離手術が多かった印象です。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植も月1回以上のペースでありました。麻酔科医はスタッフ8名レジデント16名で対応しました。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、オンコール1名ですべての緊急症に対応しています。2025年はスタッフ麻酔科医8名とレジデント17名で対応していく予定です。

● 国立成育医療研究センター

研修実施責任者：糟谷 周吾

専門研修指導医：

糟谷 周吾

大原 玲子

馬場 千晶

佐藤 正規

蜷川 純

山下 陽子
行正 翔
古田 真知子
浦中 誠
橋谷 舞
伊集院 亜梨紗
阿部 まり子
兒玉 洋介
久米 澄子

認定病院番号：87

特徴：

- ・国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で、小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT 等）について、指導者の下で経験・習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設で、救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できる。
- ・小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できる。
- ・先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できる。
- ・小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制がある。

● 小山記念病院

研修実施責任者：角田 健

専門研修指導医：

角田 健（臨床麻酔）
田上 恵（臨床麻酔）
近江 明文（臨床麻酔）

認定病院番号：1430

特徴：

地域の中核的医療施設で、産婦人科・整形外科・脳外科の手術症例が豊富。鹿行地区の中心医療施設の一つで、経験必要症例は全て当院で経験が可能である。また、茨城

県地域がん診療病院の指定を受けており、鹿行地域でのがん診療を担っている。

● **埼玉県立小児医療センター**

研修実施責任者：蔵谷 紀文

専門研修指導医：

蔵谷 紀文（麻酔・小児麻酔）

濱屋 和泉（麻酔・小児心臓麻酔）

古賀 洋安（麻酔・小児麻酔）

伊佐田 哲朗（麻酔・小児麻酔）

大橋 智（麻酔・小児麻酔）

駒崎 真矢（麻酔・小児麻酔）

石田 佐知（麻酔・小児麻酔）

高田 美沙（麻酔・小児麻酔）

坂口 雄一（麻酔・小児麻酔）

藤本 由貴（麻酔・小児麻酔）

鴻池 利枝（麻酔・小児麻酔）

麻酔科認定病院 認定番号 399

特徴：

研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。交通至便。心臓血管麻酔学会認定施設です。

● **独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター**

研修実施責任者：小澤 章子

専門研修指導医：

小澤 章子（麻酔,集中治療）

今津 康弘（麻酔,集中治療）

専門医：波里 純子（麻酔,集中治療）

認定施設番号：866

特徴：当院は「循環器」、「がん医療」、「救急」及び「総合医療」を柱として地域の医療ニーズに応えている地域医療支援病院である。「地域循環器病センター」として静岡県東部の「循環器病」に関する中核病院に位置付けられており、心臓血管外科の症例も豊富で、虚血性心疾患、血管疾患、循環器疾患の診療治療を経験できる。救急医療体制も充実しており、心臓血管外科は静岡県東部全域より救急を受け入れている。

● 自治医科大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：竹内 護

専門研修指導医：

竹内 護（小児麻酔，心臓麻酔）

讃井将満（集中治療）

鈴木昭広（周術期管理，モニタリング，超音波検査）

五十嵐孝（ペインクリニック，産科麻酔）

佐藤正章（蘇生学，医学教育）

堀田訓久（ペインクリニック，区域麻酔）

末盛智彦（小児集中治療、心臓麻酔）

永野達也（小児麻酔，小児集中治療）

島田宣弘（ペインクリニック，緩和ケア）

関厚一郎（心臓麻酔、集中治療）

篠原貴子（小児麻酔）

原村陽子（小児麻酔，小児集中治療）

吉永晃一（心臓麻酔、集中治療）

須藤智幸（手術麻酔）

山本令子（手術麻酔）

佐多奈歩（集中治療）

原鉄人（手術麻酔，集中治療）

専門医：

山田衣璃（手術麻酔）

山田希生（手術麻酔）

中田翔（手術麻酔，集中治療）

橋浦薫（手術麻酔）

中村美織（手術麻酔）
田中諒子（手術麻酔）
山田高嗣（手術麻酔）
小林正（手術麻酔）
高久奈津美（手術麻酔）

認定病院番号：105

特徴：

当院は全国初の大学病院併設型の子ども医療センターを有し、周産期母子センター、がん拠点病院といった多数の機能を有している。また救命救急センターを経由した緊急手術が多いのが特徴である。専攻医はあらゆる診療科のcommon diseaseに対する手術から高難易度術式、希少疾患を背景とした患者の麻酔などを幅広く経験可能である。また2025年度より移植医療支援室型拠点施設に指定され、肝・腎・膵臓移植を主軸に北関東の臓器移植の拠点となっている。術後疼痛管理チームの運用やペインクリニック、緩和ケア、集中治療など様々なサブスペシャリティの指導医が揃っており、専攻医一人ひとりのニーズに即した研修プログラムを提供している。

● 西東京中央総合病院

研修実施責任者：益本憲太郎

専門研修指導医：

益本憲太郎

上北郁男

認定病院番号 1535

特徴：

整形外科領域の周術期神経ブロック症例が豊富。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、東京医科大学麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

東京医科大学病院 麻酔科秘書 岩瀬寛子 プログラム担当 柿沼孝泰

東京都新宿区西新宿 6-7-1

TEL 03-3342-6111 (内5811)

E-mail hshimada@tokyo-med.ac.jp

kakitaka@tokyo-med.ac.jp

Website <https://team.tokyo-med.ac.jp/masui/index.html>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔

科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1) 臨床現場での学習，2) 臨床現場を離れた学習，3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研

修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を

認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての、東京医科大学茨城医療センター、筑波大学医学部附属病院（茨城県）、埼玉県立小児医療センター（埼玉県）、松波総合病院（岐阜県）、戸田中央総合病院（埼玉県）、千葉大学医学部附属病院（千葉県）、山形大学医学部附属病院（山形県）、立川総合病院（新潟県）など、幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。